

画像のウェーブレット解析の試み

岡本安晴

2023.10

ウェーブレット解析が金谷 (2003 ; 36 刷 2023) に分かり易く説明されていた。これは 1 変数の関数が扱われているが、2 変数の関数 (画像データ) の場合を、Nason (2008, sec. 2.13) を参考にして、以下のように考えた。

2 変数の関数 $f^{(0)}(x, y)$ において、領域 $[0, 2^n) \times [0, 2^n)$ の外では 0 であるものについて考える。さらに、各矩形領域の中では定数であるとする。すなわち、

$$f^{(0)}(x, y) = C_{h,k}^{(0)}, \quad h \leq x < h+1, k \leq y < k+1$$

である。

いま、スケール関数 ϕ とウェーブレット母関数 ψ を次のように置く。

$$\phi(x) = \begin{cases} 1, & 0 \leq x < 1 \\ 0, & \text{その他} \end{cases}$$

$$\psi(x) = \begin{cases} 1, & 0 \leq x < 1/2 \\ -1, & 1/2 \leq x < 1 \\ 0, & \text{その他} \end{cases}$$

このとき、さらに次のように置く。

$$\begin{aligned} \phi_h^{(j)}(x) &= \phi((x - 2^j h)/2^j) \\ \psi_k^{(j)}(x) &= \psi((x - 2^j k)/2^j) \\ \Phi_{h,k}^{(j)}(x, y) &= \phi_h^{(j)}(x) \phi_h^{(j)}(y) \\ \Psi_{H,h,k}^{(j)}(x, y) &= \psi_h^{(j)}(x) \phi_h^{(j)}(y) \\ \Psi_{V,h,k}^{(j)}(x, y) &= \phi_h^{(j)}(x) \psi_h^{(j)}(y) \\ \Psi_{D,h,k}^{(j)}(x, y) &= \psi_h^{(j)}(x) \psi_h^{(j)}(y) \end{aligned}$$

これらの関数 $\Psi_{H,h,k}^{(j)}$ 、 $\Psi_{H,h,k}^{(j)}(x, y)$ 、 $\Psi_{V,h,k}^{(j)}$ 、 $\Psi_{D,h,k}^{(j)}$ は互いに直交している。したがって、ノルムを 1 に調整した以下の関数は正規直交系を構成する。

$$\Phi_{h,k}^{(j,0)}(x, y) = \frac{1}{2^j} \Phi_{h,k}^{(j)}(x, y)$$

$$\Psi_{H,h,k}^{(j,0)}(x, y) = \frac{1}{2^j} \Psi_{H,h,k}^{(j)}(x, y)$$

$$\Psi_{V,h,k}^{(j,0)}(x, y) = \frac{1}{2^j} \Psi_{V,h,k}^{(j)}(x, y)$$

$$\Psi_{D,h,k}^{(j,0)}(x, y) = \frac{1}{2^j} \Psi_{D,h,k}^{(j)}(x, y)$$

いま、

$$V^{(0)} = \{\Phi_{h,k}^{(0,0)}\}; \quad \Phi_{h,k}^{(0,0)} \text{で張られる空間}$$

と置けば、

$$f^{(0)} \in V^{(0)}$$

である。

さらに、

$$V^{(j)} = \{\Phi_{h,k}^{(j,0)}\}$$

$$W_H^{(j)} = \{\Psi_{H,h,k}^{(j,0)}\}$$

$$W_V^{(j)} = \{\Psi_{V,h,k}^{(j,0)}\}$$

$$W_D^{(j)} = \{\Psi_{D,h,k}^{(j,0)}\}$$

と置けば、

$$V^{(j-1)} = V^{(j)} \oplus W_H^{(j)} \oplus W_V^{(j)} \oplus W_D^{(j)} \quad (1)$$

となる。 $V^{(j-1)}$ は、レベル j の空間の直和になっている。

いま、 $f^{(0)}(x,y)$ が、空間 $V^{(j-1)}$ において、次式のように表されているとする。

$$f^{(j-1)}(x,y) = \sum C_{h,k}^{(j-1)} \Phi_{h,k}^{(j-1)}(x,y) \quad (2)$$

関数 $\Phi_{h,k}^{(j)}(x,y)$ は、0あるいは1を値とする関数であるので、 $C_{h,k}^{(j-1)}$ は $f^{(j-1)}(x,y)$ の関数値である。関数 $f^{(j-1)}(x,y)$ を、空間 $V^{(j)}$ 、 $W_H^{(j)}$ 、 $W_V^{(j)}$ 、 $W_D^{(j)}$ の成分に分解するために、それらの正規直交基底との内積を求める。

$$C_{h,k}^{(j)} = \langle f^{(j-1)}, \Phi_{h,k}^{(j,0)} \rangle = \frac{1}{4} \left(C_{2h,2k}^{(j-1)} + C_{2h+1,2k}^{(j-1)} + C_{2h,2k+1}^{(j-1)} + C_{2h+1,2k+1}^{(j-1)} \right) \times 2^j$$

$$D_{H,h,k}^{(j)} = \langle f^{(j-1)}, \Psi_{H,h,k}^{(j,0)} \rangle = \frac{1}{4} \left(C_{2h,2k}^{(j-1)} - C_{2h+1,2k}^{(j-1)} + C_{2h,2k+1}^{(j-1)} - C_{2h+1,2k+1}^{(j-1)} \right) \times 2^j$$

$$D_{V,h,k}^{(j)} = \langle f^{(j-1)}, \Psi_{V,h,k}^{(j,0)} \rangle = \frac{1}{4} \left(C_{2h,2k}^{(j-1)} + C_{2h+1,2k}^{(j-1)} - C_{2h,2k+1}^{(j-1)} - C_{2h+1,2k+1}^{(j-1)} \right) \times 2^j$$

$$D_{D,h,k}^{(j)} = \langle f^{(j-1)}, \Psi_{D,h,k}^{(j,0)} \rangle = \frac{1}{4} \left(C_{2h,2k}^{(j-1)} - C_{2h+1,2k}^{(j-1)} - C_{2h,2k+1}^{(j-1)} + C_{2h+1,2k+1}^{(j-1)} \right) \times 2^j$$

上記の係数は、正規直交基底に対するものであるが、これらに関数値が0または1であるものに対する係数で表すと次式を得る。

$$C_{h,k}^{(j)} \Phi_{h,k}^{(j,0)}(x,y) = C_{h,k}^{(j)} \times \frac{1}{2^j} \Phi_{h,k}^{(j)}(x,y)$$

$$= \frac{1}{4} \left(C_{2h,2k}^{(j-1)} + C_{2h+1,2k}^{(j-1)} + C_{2h,2k+1}^{(j-1)} + C_{2h+1,2k+1}^{(j-1)} \right) \times 2^j \times \frac{1}{2^j} \Phi_{h,k}^{(j)}(x,y)$$

$$= C_{h,k}^{(j)} \Phi_{h,k}^{(j)}(x, y)$$

ここで、

$$C_{h,k}^{(j)} = \frac{1}{4} \left(C_{2h,2k}^{(j-1)} + C_{2h+1,2k}^{(j-1)} + C_{2h,2k+1}^{(j-1)} + C_{2h+1,2k+1}^{(j-1)} \right)$$

である。 $\Phi_{h,k}^{(j)}(x, y)$ の値は0または1であるので、 $C_{h,k}^{(j)}$ は関数 $f^{(j)}(x, y)$ の値を表す (式 (2) において、 $j-1$ を j とおく)。

同様に以下の式が導かれる。

$$D_{H,h,k}^{(j,0)} \Psi_{H,h,k}^{(j,0)}(x, y) = D_{H,h,k}^{(j,0)} \times \frac{1}{2^j} \Psi_{H,h,k}^{(j)}(x, y) = D_{H,h,k}^{(j)} \Psi_{H,h,k}^{(j)}(x, y)$$

$$D_{H,h,k}^{(j)} = \frac{1}{4} \left(C_{2h,2k}^{(j-1)} - C_{2h+1,2k}^{(j-1)} + C_{2h,2k+1}^{(j-1)} - C_{2h+1,2k+1}^{(j-1)} \right)$$

$$D_{V,h,k}^{(j,0)} \Psi_{V,h,k}^{(j,0)}(x, y) = D_{V,h,k}^{(j,0)} \times \frac{1}{2^j} \Psi_{V,h,k}^{(j)}(x, y) = D_{V,h,k}^{(j)} \Psi_{V,h,k}^{(j)}(x, y)$$

$$D_{V,h,k}^{(j)} = \frac{1}{4} \left(C_{2h,2k}^{(j-1)} + C_{2h+1,2k}^{(j-1)} - C_{2h,2k+1}^{(j-1)} - C_{2h+1,2k+1}^{(j-1)} \right)$$

$$D_{D,h,k}^{(j,0)} \Psi_{D,h,k}^{(j,0)}(x, y) = D_{D,h,k}^{(j,0)} \times \frac{1}{2^j} \Psi_{D,h,k}^{(j)}(x, y) = D_{D,h,k}^{(j)} \Psi_{D,h,k}^{(j)}(x, y)$$

$$D_{D,h,k}^{(j)} = \frac{1}{4} \left(C_{2h,2k}^{(j-1)} - C_{2h+1,2k}^{(j-1)} - C_{2h,2k+1}^{(j-1)} + C_{2h+1,2k+1}^{(j-1)} \right)$$

上記の漸化式 (下降サンプリング) により、式 (1) に基づいて、式 (2) における係数 $C_{h,k}^{(j-1)}$ から空間 $V^{(j)}$ 、 $W_H^{(j)}$ 、 $W_V^{(j)}$ 、 $W_D^{(j)}$ における係数 $C_{h,k}^{(j)}$ 、 $D_{H,h,k}^{(j)}$ 、 $D_{V,h,k}^{(j)}$ 、 $D_{D,h,k}^{(j)}$ を求めることができる。

ウェーブレット解析のプログラムをリスト 1 のように作成した。

リスト 1 画像のウェーブレット解析

```
import cv2          # pip install opencv-python
import numpy as np
import matplotlib.pyplot as plt

img1 = cv2.imread('Sample_4.png') # 画像 512×512 ファイルの読み込み
plt.imshow(img1)
plt.show()
```

```

f_0 = np.sum(img1, axis=2)/3          # モノクロ化

#
#   ウェーブレット解析結果を辞書型として保存
#
WaveletAnal = {}
WaveletAnal['0'] = {'f0': f_0}

n = 9
N = 2**n

#
#   レベル j の解析結果の図示
#
def disp_map(j):
    Cj = WaveletAnal[f' {j}'] ['f0']    # 係数 C_h, k
    DHj = WaveletAnal[f' {j}'] ['DHj']
    DVj = WaveletAnal[f' {j}'] ['DVj']
    DDj = WaveletAnal[f' {j}'] ['DDj']
    #
    #   画像を配列 imgs に設定
    #   大きさ 512×512 を 4 分割して使用
    #
    imgs = np.full((512, 512, 3), 0.5)
    for h in range((2**(n-j))):
        for k in range((2**(n-j))):
            for ii in range((2**j)//2):    # スケールに合わせて引き延ばし
                for jj in range((2**j)//2):
                    for kk in range(3):    # 赤、緑、青の 3 チャンネル
                        #
                        #   C_hk の値
                        #
                        imgs[512//2 + ((2**j)//2)*h + ii][
                            512//2 + ((2**j)//2)*k + jj][kk] ¥
                            = Cj[h][k] / 255
                    #

```

```

#    DH, DV, DD は、値 0 を黒に設定
#
imgs[512//2 + ((2**j)//2)*h + ii][((2**j)//2)*k + jj][kk] ¥
    = 0.0
imgs[((2**j)//2)*h + ii][512//2 + ¥
    ((2**j)//2)*k + jj][kk] ¥
    = 0.0
imgs[((2**j)//2)*h + ii][((2**j)//2)*k + jj][kk] ¥
    = 0.0
if DHj[h][k] > 0:    #    正ならば緑に設定
    imgs[((2**j)//2)*h + ii][512//2 + ¥
    ((2**j)//2)*k + jj][1] ¥
    = DHj[h][k] / 255
elif DHj[h][k] < 0: #    負ならば赤に設定
    imgs[((2**j)//2)*h + ii][512//2 + ¥
    ((2**j)//2)*k + jj][0] ¥
    = -DHj[h][k] /255
if DVj[h][k] > 0:
    imgs[512//2 + ((2**j)//2)*h + ii][((2**j)//2)*k + jj][1] ¥
    = DVj[h][k] / 255
elif DVj[h][k] < 0:
    imgs[512//2 + ((2**j)//2)*h + ii][((2**j)//2)*k + jj][0] ¥
    = -DVj[h][k] /255
if DDj[h][k] > 0:
    imgs[((2**j)//2)*h + ii][((2**j)//2)*k + jj][1] ¥
    = DDj[h][k] / 255
elif DDj[h][k] < 0:
    imgs[((2**j)//2)*h + ii][((2**j)//2)*k + jj][0] ¥
    = -DDj[h][k] /255

plt.imshow(imgs)    #    画像配列 imgs の表示
plt.xticks([])
plt.yticks([])
plt.title(f'j = {j}')
plt.show()

```

```

for j in range(1,n):
    # レベル j の解析
    print(f'Level {j} started.')
    Cj_1 = WaveletAnal[f' {j-1}'] ['f0']
    Cj = np.empty((2**(n-j), 2**(n-j)))
    DHj = np.empty((2**(n-j), 2**(n-j)))
    DVj = np.empty((2**(n-j), 2**(n-j)))
    DDj = np.empty((2**(n-j), 2**(n-j)))
    #
    # 下降サンプリング
    #
    for h in range(2**(n-j)):
        for k in range(2**(n-j)):
            Cj[h][k] = (Cj_1[2*h][2*k] + Cj_1[2*h+1][2*k] +
                       Cj_1[2*h][2*k+1] + Cj_1[2*h+1][2*k+1]) / 4
            DHj[h][k] = (Cj_1[2*h][2*k] - Cj_1[2*h+1][2*k] +
                        Cj_1[2*h][2*k+1] - Cj_1[2*h+1][2*k+1]) / 4
            DVj[h][k] = (Cj_1[2*h][2*k] + Cj_1[2*h+1][2*k] -
                        Cj_1[2*h][2*k+1] - Cj_1[2*h+1][2*k+1]) / 4
            DDj[h][k] = (Cj_1[2*h][2*k] - Cj_1[2*h+1][2*k] -
                        Cj_1[2*h][2*k+1] + Cj_1[2*h+1][2*k+1]) / 4
    WaveletAnal[f' {j}'] = {'f0': Cj}
    WaveletAnal[f' {j}'] ['DHj'] = DHj
    WaveletAnal[f' {j}'] ['DVj'] = DVj
    WaveletAnal[f' {j}'] ['DDj'] = DDj

    disp_map(j) # 解析結果の表示

while True:
    print(f'0 < j < {n}')
    j = int(input('j = '))
    if j <=0 or j >= n:
        break
    disp_map(j)

```

リスト 1 を実行すると、画像ファイル Sample_4.png が読み込まれて表示される (図 1)。画像サイズは 512 ピクセル×512 ピクセルであり、 $512 = 2^9$ である。

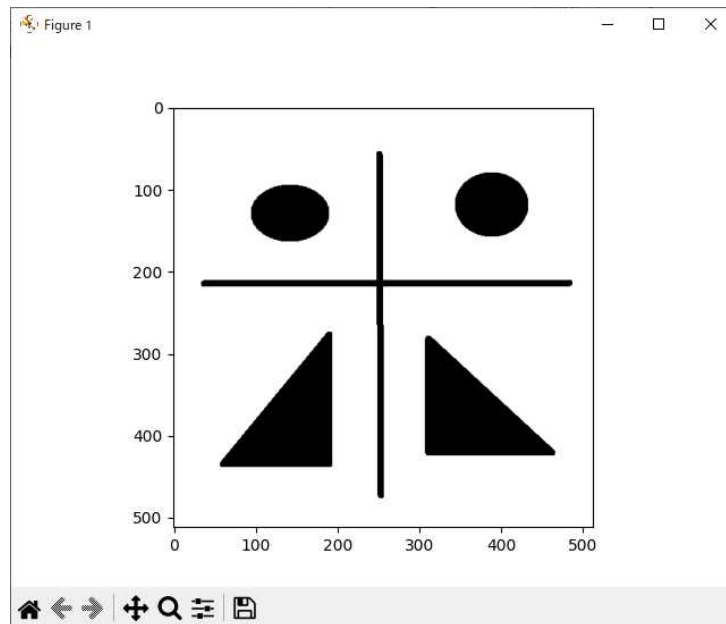


図 1

図 1 のフォームを閉じると、レベル 1 のウェーブレット解析が始まる。レベル 1 の解析が終わると、解析結果が図示される (図 2)。

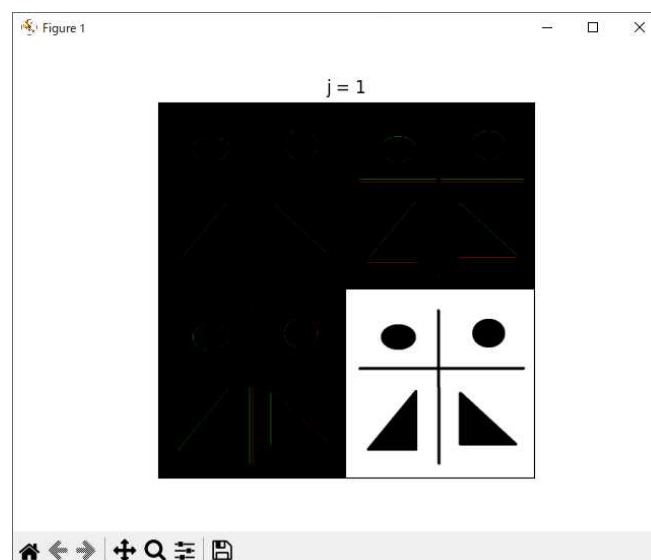


図 2

表示画面の右下に $c_{h,k}^{(j)}$ のマップが表示されている。右上は、ウェーブレットの垂直成分、左下はウェーブレットの水平成分、左上が対角成分である。プログラム中では、画像は numpy の ndarray 型で表されているが、表示は OpneCV で行っている。OpenCV での縦座標は ndarray 型の行に、横座標は ndarray 型の列に対応しているが、このことは本稿の最後の附記で確認している。

図2のフォームを閉じると、次のレベル、すなわちレベル2の解析が始まり、解析が終了すると、その結果が表示される (図3)。

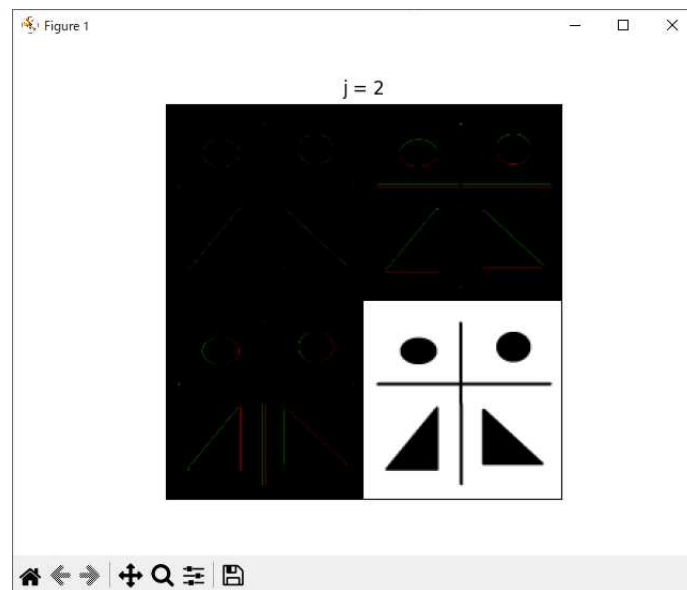


図3

図3のフォームを閉じると、次のレベル3の解析へと進む。この手順を繰り返すと、レベル8まで進む。画像の大きさが 512 ピクセル×512 ピクセルのときは、 $512 = 2^9$ であるので、レベル8の解析が最終レベルとなる (図4)。

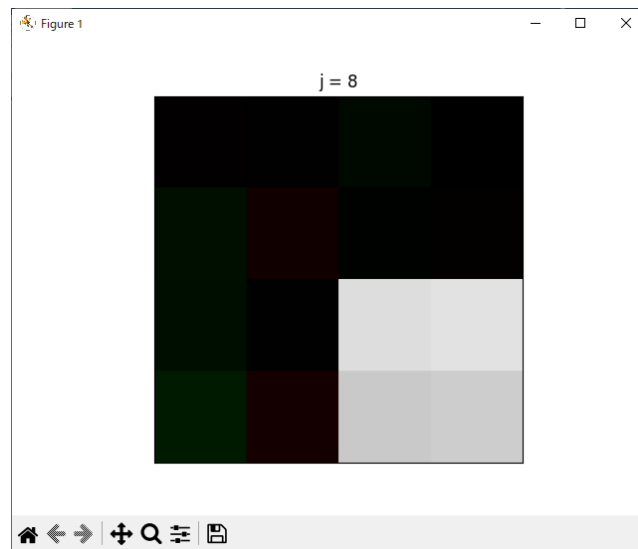


図 4

図 4 のフォームを閉じると、端末画面は以下のようにになっている。

```
= RESTART: D:/WaveletAnal/wa_files/WaveAnal.py
Level 1 started.
Level 2 started.
Level 3 started.
Level 4 started.
Level 5 started.
Level 6 started.
Level 7 started.
Level 8 started.
0 < j < 9
j =
```

j に解析結果のレベル値 j を設定すると、そのレベルの結果が表示される。例えば、5 を設定すると、下図 (図 5) のようになる。

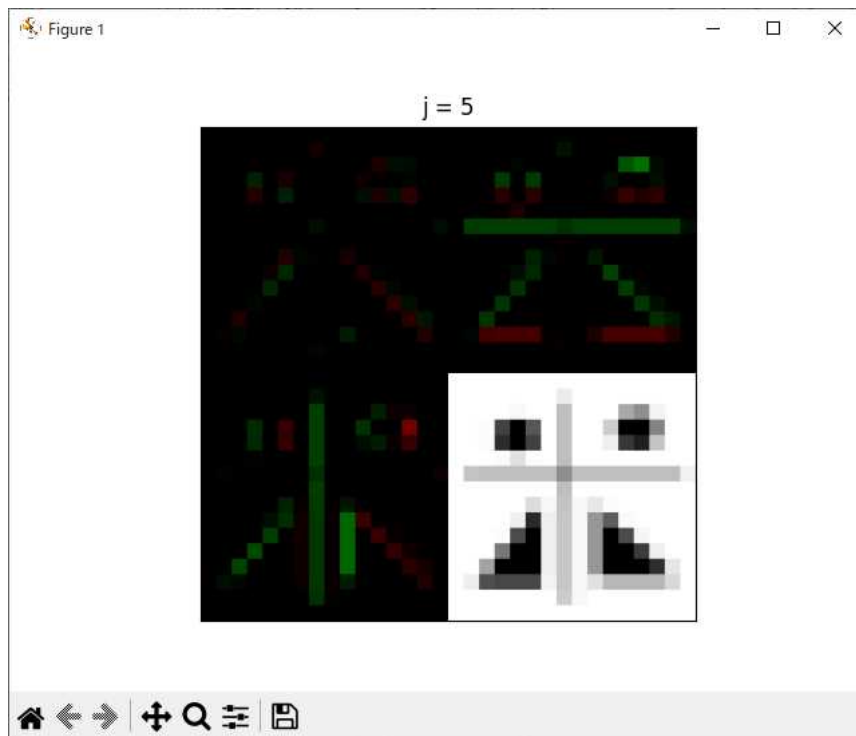


図 5

図 5 のフォームを閉じて、 j に範囲外の値、例えば、0 を設定すると、プログラムの実行終了である。

$0 < j < 9$

$j = 5$

$0 < j < 9$

$j = 0$

附記 OpneCV の座標軸と numpy の ndarray 型の行・列との関係

画像を表す Numpy の ndarray 型配列の行は、OpenCV の画像において縦軸に対応し、列は OpenCV の画像の横軸に対応している。このことを確認するスクリプトをリスト 2 のように用意した。

リスト 2 Numpy の ndarray 型配列と OpneCV の画像との対応

```
import cv2          # pip install opencv-python
import numpy as np
import matplotlib.pyplot as plt

img = np.full((300, 500, 3), 128, dtype = np.uint8)
#
#     Numpy の ndarray 型配列の要素に値を設定
#
for i in range(130, 170):
    for j in range(500):
        img[i][j][1] = 255
#
#     OpenCV の関数で描画
#
cv2.rectangle(img, (225, 0), (275, 300), (0, 0, 255), thickness = -1)
#
#     画像を表す ndarray 型配列の表示
#
plt.imshow(img)
plt.show()
```

リスト 2 を実行すると図 A のフォームが表示される。

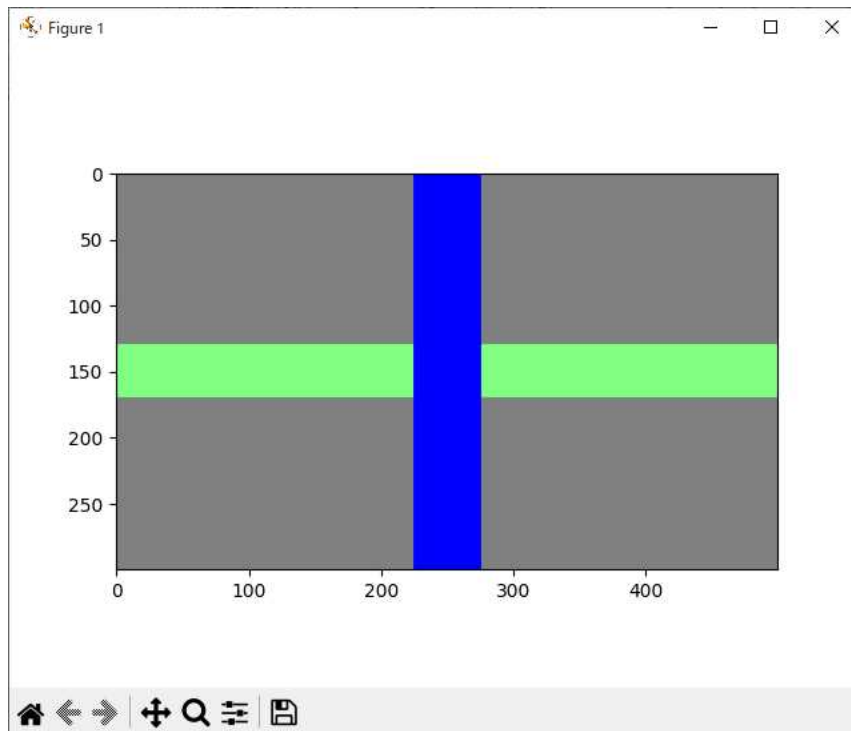


図 A

横の薄緑色の帯が、ndarray 型配列 `img` の要素に直接値を設定して描いたものである。配列 `img` の行が OpenCV の画像の縦座標に、配列 `img` の列が OpenCV の画像の横軸に対応していることが分かる。青色の縦の帯は、OpenCV の関数 `rectangle` で描いたものである。第 1 座標が横座標に、第 2 座標が縦座標に対応していることが分かる。

引用文献

- 金谷健一 (2003) これなら分かる応用数学教室. 共立出版
 Nason, G. P. (2008) *Wavelet methods in statistics with R*. Springer